

カンボジア中部における近年の森林減少の特徴と将来予測

(独)森林総合研究所



森林減少・劣化からの温室効果ガス排出削減(REDD)では、過去の森林減少とその要因を捉えて将来を予測することが求められます。カンボジアの森林地図3期分を用い、道路分布、土地政策、自然環境条件が森林減少に与える影響を評価し、その結果をもとに森林減少の将来予測を進めています。

1

調査対象地

- 場所:カンボジア国コンポントム州東部
チニット川流域(約3,644 km²)

- 森林:主に乾燥常緑林



①住民による道路沿いの農地開発

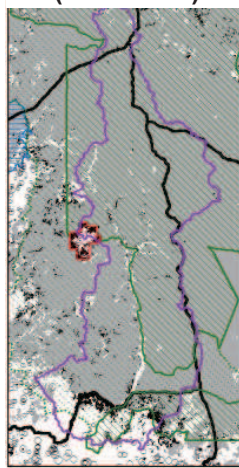


②経済的土地開発許可区における大規模森林伐採(ゴム園予定地)(いずれも2012年6月撮影)

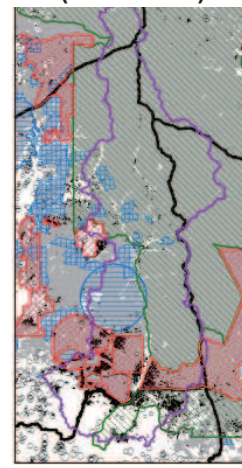
2

2000年代の森林減少とゾーニング

2000年代前半
(2002-2006)



2000年代後半
(2006-2010)



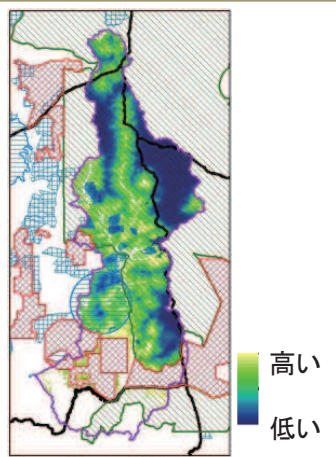
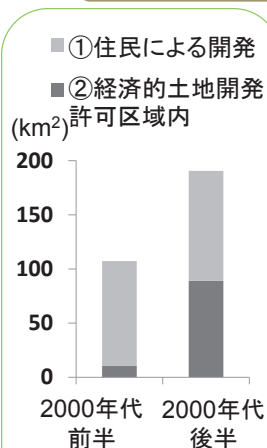
村落分布
(世帯数を円の
大きさに表示)



- 森林伐採許可区(2002年から一時的停止)
- 森林伐採許可区(2002年に取り消し)
- 保護林(野生動物保護区、研究林)
- コミュニティ林
- 経済的土地開発許可区(主にゴム園に転換)
- 非森林(ゴム園含む)
- 森林減少
- 森林

3

森林減少の特徴と将来予測



森林減少ポテンシャル
マップ(2014年)

- 森林減少は以下2つにより引き起こされていました(左図)。

- ① 住民による農地開発
- ② 2000年代後半に増加した経済的土地開発許可区域での大規模開発(主にゴム園)

- 各種GISデータを用いた統計解析(ロジスティック回帰)によって①の特徴を調べると、森林伐採許可を取り消された場所、林縁や道路の近く、河川や水域からやや離れたところで森林減少が進んでいました。

- コミュニティ林や保護林の指定地で森林減少しにくい傾向がみられ、森林保護型のゾーニング政策には一定の効果が期待できることが判明しました。